

令和8年6月16日

養父市議会議長 谷 垣 満 様

関宮小さな拠点（仮称）整備等調査特別委員会
委員長 西 垣 司

関宮小さな拠点（仮称）整備等調査特別委員会中間報告書

本特別委員会において調査したことを、次のとおり中間報告する。

記

1 調査年月日 令和8年5月29日（金）

2 調査事項

- （1）関宮小さな拠点（仮称）整備事業の進捗状況について
- （2）管理運営体制の現状と今後の見通しについて
- （3）事業の課題点について
- （4）その他

3 調査内容

建設現場において現地の状況を視察した後、市民生活部関宮小さな拠点整備推進室から事前質問に対する説明と報告を受け、調査を行った。

（1）建設工事の進捗状況と今後のスケジュールについて

第1期工事は完了し、現在、備品等の仮契約を行い、納入を待つ段階となっている。

- ① 福祉エリアについては、当初、「サ高住（サービス付き高齢者住宅）」と「小規模多機能型居宅介護施設」を計画したが、運営者のマンパワーや事業採算性が課題となり、「市独自の高齢者宿泊施設」と「デイサービス」に変更、さらにデイサービスも単独運営だと事業の採算性が合わないとして、最終的に「サロン」等と「宿泊施設」とするこ

とを計画している。宿泊施設は、短期入院後の療養や介護者不在時の一時滞在など多様なニーズを調査しながら、柔軟な利用方法を検討するとしている。また、デイサービス等の介護保険施設が入居しないこととなり、現時点では、宿泊室を4部屋（予定）に、空いたスペースに「キッズエリア」を拡張し、幅の広い滑り台などの設置等を検討されている。

- ② 施設全体にユニバーサルデザインが導入され、全ての人が使いやすいようにデザインされている。ベビールーム、広い授乳室、トイレ設備などにも配慮がなされている。また、動線や視野の広さも設計に取り入れられている。
- ③ 関宮コミュニティスポーツセンターの解体工事は、令和8年11月頃の開始見込みで、芝生グラウンドの一部が一定期間利用できなくなる可能性がある。

跡地の活用については、現在、若者・子育て世代との住民会議を開催しており、様々な意見をいただいているところである。あわせて小・中学生へのアンケート調査を踏まえ、7月下旬には意見をまとめることとしている。現時点では、隣接する水辺公園を活用した川遊び、デイキャンプ、アスレチック遊具、ドッグランの整備など、多様な意見が出されている。市民はもとより、市外の方の利用を図る施設として整備を進めていかなければならない。

また、現在関宮コミュニティスポーツセンターを利用しているスポーツ団体等へは、順次、説明を行う予定としている。

（2）管理運営体制の現状と今後の見通し

- ① サウンディング調査は継続中であり、統括運営事業者とテナント事業者の二つの視点で進めている。

現在までに施設管理と運営管理を一体的に担う統括運営に対して関心のある事業者はなかった。また、テナント事業者については、NPO法人「但馬を結んで育つ会」との連携、協力を得ながら地元事業者へのヒアリング調査や施設見学を行うなど、出店にあたっての要件整理やさらなる周知を進めている。統括運営の方式については8月をめぐりに決定していきたいとしている。事業者の有無が、管理運営方針を決定する重要な判断点となる。

- ② 一方で、関宮地域内の4つの地域自治組織、関宮区長会、関宮文化協会の三者が6月に「拠点施設活用準備会（仮称）」を立ち上げ、関宮小さな拠点整備推進室が事務局を担うこととしている。また、小さな

拠点で今後活動したいという市民団体や個人、非営利事業者等それぞれが持つ強みを生かしながら連携して、小さな拠点を盛り上げていくための市民組織「地域活性化バンク（仮称）」の取組も進めている。現在の登録数は5件程度だが、地域自治組織と連携しながら登録者の確保に努めている。このように、住民が主体的に拠点施設に関わり、地域の賑わい、施設の運営など地域の活性化を図る体制を構築としている。

- ③ 薬局、売店、飲食店などの入居は、今後のサウンディング調査を通じて呼びかけを続けるが、適切な事業者が見込まれる場合は、公募を経て順次入居を進め、令和9年4月には先行オープン、令和10年4月にグランドオープンを目指す予定である。

（3）今後の事業の課題について

- ① 第2期工事となる令和8年度の予算は、1億8,076万円であり、対象エリアは宿泊施設、キッズエリア、売店、歯科、薬局等である。売店や歯科などの内装は事業者負担が前提となっており、市は設備的な工事のみを行うこととしている。
- ② 市は、一日の来場者を500人と仮定した場合の光熱水費を月額約100万円と試算しており、その他の維持管理費や人件費は別途精査中である。将来的には統括的な運営事業者により独立した経営を担う形を目指すとしているが、開館後の初期段階については、市が負担することも考えられる。光熱水費等は、個別にメーターがあるテナントは個別契約を行い、共用部分は面積に応じて家賃に含める方向で検討中である。
- ③ 周辺の植栽については、駐車場周辺には横断防止の低木、河川沿いには花の咲く樹木を植えることを考えている。また、防災倉庫の移設や、イベント備品、芝刈り機などを保管する新たな倉庫を検討している。

（4）まとめ

大きな理想を掲げて着手した大事業であるが、現実とのはざまで度重なる計画変更を迫られてきた。地域の活力が衰退していく中で採算面の課題もあり、運営事業者、テナント事業者ともに未だ決定していない状況にある。住民会議など、これまで多くの人が関わり希望に満ちた事業を具現化するために、多額の事業費をかけ、建物は完成に近づいている。この立派な施設を着実かつ確実に運営していくためには、養父市全

体で活用できるものにしていかなければならない。今後備品等が納入されれば、拠点をよりイメージしやすいものになっていく。地域住民に運営面にしっかりと参画、協働していただく体制づくりが重要である。

一方で、物価高騰や中東情勢が懸念される中、2期工事については財政面で予測が難しく不安定な面も考えられる。これまでの予算、事業の精査を行いながら、本特別委員会では事業成功への協力とともに、今後とも動向を注視し、継続して調査を行っていく。